

資料

2)マウスピース型矯正装置による治療には、以下の利点・欠点を踏まえた適応症の判断や専門的知識を要することから、大学病院等や学会が認める基本研修機関において十分な矯正歯科領域全般にわたる基本的な教育と臨床的なトレーニングを受けた歯科医師による診察、検査、診断を基に治療を行うことを推奨します。

公益社団法人日本矯正歯科学会「ポジションステートメント マウスピース型矯正装置による治療に関する見解」から抜粋

【公益社団法人日本矯正歯科学会 医療問題検討委員会 倫理・裁定委員会】より

「海外カスタムメイド矯正装置の使用にあたっての遵守事項」

1. 海外カスタムメイド矯正装置は、日本国の薬事法上の医療機器および歯科技工法上の矯正装置に該当しないことを患者に説明すること。
2. 海外カスタムメイド矯正装置以外に日本国の薬事法上の医療機器および歯科技工法上の矯正装置による治療方法が存在することを、患者に十分説明すること。
3. 海外カスタムメイド矯正装置を用いた治療を行う歯科医師は、個人の全責任において使用すること。
4. 海外カスタムメイド矯正装置の使用に当たり上記内容を患者に十分な説明の上、理解と同意を得て同意書を作成すること。

公益社団法人日本矯正歯科学会「カスタムメイド(マウスピース型)の矯正装置の注意事項」より抜粋

【参考資料】

公益社団法人日本矯正歯科学会  
ポジションステートメント マウスピース型矯正装置による治療に関する見解  
[http://www.jos.gr.jp/news/2019/0605\\_13.html](http://www.jos.gr.jp/news/2019/0605_13.html)

アライナー型矯正装置による治療指針  
[http://www.jos.gr.jp/medical/file/aligner\\_pointer.pdf](http://www.jos.gr.jp/medical/file/aligner_pointer.pdf)

公益社団法人 日本臨床歯科矯正医会  
<https://www.jpao.jp/15news/1525trendwatch/vol23>

ここに注意！ アライナー矯正治療のポイント

- 効果は装着時間に影響される。
- 適応症例に限られる。
- 咬合面を覆う形態のため、臼歯が圧下されることでうまく噛めなくなる場合がある。
- 保険診療の適応範囲外である。

表 1

実践されておられるAQUA日本橋DENTAL CLINIC院長綿引先生は、アライナー矯正治療で大切なことは「使い方」である、と強調されています。

「アライナー矯正治療装置の適応症例を見極め、本当にその患者さまのQOLを最大限に引き上げることができのかが冷静に判断していただきたい」と思います。歯科矯正に対して専門的な教育を受け、十分な専門知識と技術を持ち、かつ臨床経験を積んだ歯科医師が取り扱うことが重要です。その患者さまにベストな治療法はどれなのか。

それらのメリットとデメリットをすべて患者さまに説明し、同意のもとに行うべきです。全ての症状に対してひとつの装置に固執して用いる、ということとは医療において通常はあり得ないことです。使い方次第で効果が変わってくると考えます。(綿引先生)

最適な治療法はどれなのかを見極めるための知識や技術力は最低限必要であると言えます。



【取材協力】  
綿引 淳一 先生  
AQUA 日本橋 DENTAL CLINIC 院長  
医療法人 Teeth Alignment 理事長  
歯学博士 (歯科矯正学)  
日本矯正歯科学会認定医  
包括的矯正歯科学研究会 (IOS) 代表  
昭和大学歯科矯正学教室 兼任講師  
日本臨床歯科医学会 (SJCD) 認定医  
厚生労働省 臨床研修指導医  
<https://teeth-alignment.jp/>

# まずは、マウスピース矯正治療を正しく理解しよう!

従来のマルチブラケット矯正治療とは異なり、目立たず、取り外し可能、気軽に始められることで人気が高まるマウスピース矯正治療(以下アライナー)。現代のニーズと矯正歯科界の対応は。まずは基礎知識をしっかりと確認しましょう!

そもそもアライナー矯正治療とは？

アライナー矯正治療とは、カスタムメイドされた透明なマウスピースを交換しながら歯並びを整える歯列矯正です。アライナー矯正治療の歴史は約20年程度と比較的新しい治療となります。普及の背景として、IT技術の進化が大きく関係しています。各種データのデジタル化、AIによるシミュレーション精度の向上により、ひとりひとりの患者に適したカスタムメイド型のアライナー矯正治療の提供が可能になったといえるでしょう。

従来のワイヤー矯正と異なる点

大きな違いは必要に応じて取り外し可能な事です。目立たず、気づかれることもほとんどないでしょう。ワイヤー矯正につきものである食事の不具合や歯が移動するときの痛みも個人差はありますが、そこまで気にならないと言われています。一見万能に思えるアライナー矯正治療ですが、いくつかの注意点があります。(表1参照)

国内外で製作されたマウスピース型矯正治療装置は日本の薬機法では未承認

認の装置です。矯正歯科治療で保険診療が適応となる先天性疾患や顎変形症患者は、アライナーを用いる矯正歯科治療は保険適用外となります。また医薬品副作用被害者救済制度の対象外となるため、責任は処置を行った主治医にあり、慎重な対応が求められます。

ニーズが増えた理由は？ 矯正歯科界に求められる対応とは

アライナー矯正治療のニーズが増えた理由は2つあります。ひとつは、従来のマルチブラケット矯正治療より歯科医師側も患者側も「気軽に」矯正治療を開始できること。もうひとつはアライナー矯正サービスを提供する各社のマーケティング効果といえそうです。各社さまざまなアプローチでサービスを展開しており、特に今まで矯正治療に対し「関心はあるが見た目や費用面で諦めていた」という若年層のニーズを発掘したといえるでしょう。

このような状況下で、歯科矯正業界はどのように対応しているのでしょうか。従来、矯正歯科治療は矯正専門医が行うのが一般的でした。アライナー矯正治療は一般歯科診療を行う歯科医師でも導入することが可能です。「矯正専門医でなくとも、矯正歯科治療を

手軽に行える」というイメージが先行しているようです。

学会からの見解を確認しよう

しかし実際は、セカンドオピニオンや再治療を希望する患者が後を絶たないといった現状があることも見逃せません。公益社団法人日本矯正歯科学会からは、P3にあるような注意喚起がなされています。

以上のような遵守事項を理解したうえで提供が必須事項といえそうです。

デメリットがあることを正しく理解する

アライナー矯正治療は、テクノロジーの進化により矯正専門医でなくとも治療計画の設定は可能です。しかしそれは過去の症例をもとに予想された計画であり、必ずしもその患者のQOLが改善するとは限りません。また、治療途中で経過が思わしくなかった場合などの微調整はやはり矯正専門の知識を持った歯科医師でないといえず、正しく理解していないと結果を得ることができない、いわば諸刃の剣であるといえます。

矯正歯科専門医で包括的歯科治療を